

## 主 文

本件上告を棄却する。

当審における訴訟費用は被告人の負担とする。

## 理 由

被告人本人の上告趣意は、事実誤認の主張であつて、適法な上告理由にあたらな  
い。

弁護人石川利男の上告趣意第一点は、判例違反をいうが、所論引用の大審院判例  
は、すでに当裁判所の判例（昭和二四年（れ）第二八五二号同二五年二月二四日第  
二小法廷判決、刑集四巻二号二五五頁）によつて変更されているものであり、同第  
二点も、判例違反をいうが、所論引用の当裁判所の判例は、事案を異にして本件に  
適切でないから、いずれも適法な上告理由にあたらない。

また、記録を調べても、刑訴法四―一条を適用すべきものとは認められない。

よつて、同法四―四条、三八六条一項三号、一八―条一項本文により、裁判官全  
員一致の意見で、主文のとおり決定する。

昭和四三年四月二四日

最高裁判所第二小法廷

裁判長裁判官	奥	野	健	一
裁判官	草	鹿	浅	之 介
裁判官	城	戸	芳	彦
裁判官	石	田	和	外
裁判官	色	川	幸	太 郎